

日 時：平成 29 年 7 月 6 日（木）18 時 30 分 ～20 時 00 分

場 所：広船地区構造改善センター

対象地区：広船

参加人数：10 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○空家対策について</p> <p>(市民から)</p> <p>空家対策について、いろいろ進展があると思うが、屋根が飛んで、夜も寝れない状況のところがあり、前に市役所に相談したら、持ち主の人が不明で連絡ができないと言われた。市として空家対策に関して、どのくらい進んでいるのかお聞きしたい。</p> <p>(市から)</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年、一年かけて調査し、空家の数が確定した。現在、空家と認定されているのは、市内で 465 件。最初の調査時は、1 件の敷地にいくつも建物があるものも含まれていたこともあり 1,478 件であった。再度、中に入って調査した結果 465 件となり、うち、平賀地区 202 件、尾上地区 118 件、碓ヶ関地区 145 件であった。・市では、空家等対策審議会にかけて、審議会より空家等対策計画を 6 月 6 日にいただいており、これに基づいて空家対策をすることになる。・465 件のうち、使える空家や貸しても良い空家等がどれくらいあるのかを今調べている。・空家のうち、屋根が飛んだり潰れたり崩れかかっている空家を特定空家に認定し、これをどうするかというところが難しいところである。行政で全て片付けるというわけにはいかないので、まずは持ち主に連絡をするところから始まる。屋根が飛びそうになってどうにもならないものに関しては、飛ばないように市で対応をするが、それを撤去するとなると、所有者から撤去する費用が入ってくる見込みがないため動けない。広船地区でも 10 件程あるが、市ではくぎを打ったり、ロープで縛ったりなど、応急措置するぐらいしか今の段階ではできないのが現状である。本当であれば、片付けてしまいたいところではあるが、それを片付けるのに皆さんの税金を使ってやってもいいのかというところが難しい。これは全国で今困っている問題である。・平川市は、条例や対策計画、利用計画を作っているもので、他の所よりも進んではいるが、だからといって片付けられないのが悩ましいところである。・緊急的にどうしようもならないところは、まずは、消防署へ連絡していただければ対応してもらえる。その後の対応については、個人の資産的な部分があるので、登記の問題や相続の問題など様々調査して行政代執行までとなると、なかなかいけるような状態にはならない。近隣の住民の方に支障がないような形で対処していき、最終的には税金を使ってでも片付けなければならないとすれば、その後の費用負担をどのようにして所有者から回収するのかなど、方法を考えてやらなければならないので、行政としても非常

に厳しい状態である。

- ・昨年度よりは一步進んでいるので、さらにその後の住民の不安を解消できるような体制になっていくはずであるのでよろしくお願ひしたい。

○生ごみの減量化について

(市民から)

家庭用のコンポストはあるようだが、我々農家が使える事業者用のものはないのか。昔あったときはよく利用していた。何年も使っている間に雪で潰れてしまい、その後もまたあれば良いなど周りで話をしていた。また助成をいただいて、生ごみの減量化をもっと大きくしてはどうか。

(市から)

- ・町時代には農家用のコンポストを用意していたこともあったが、現在は無い。
- ・今やっている減量化としては、家庭の生ごみについて、コンポストや水切り機械を用意している。
- ・事業者用については、それなりのルートや助成を含めてどういう流れを作って行けるか、これから検討していくことになる。
- ・バイオマス都市構想の中に、バイオガスという大きな課題が出てきた。それを作るための生ごみ、堆肥を効率良く集めないとなかなかガス発電までの量を確保するまでにいかないことになるので、大枠を作る中で、効率良くかつ大量に確保できる体制をまず検討していこうとしている。

○陸上競技場について

(市民から)

陸上競技場にウォーキングコースはあるのか。

(市から)

- ・競技場内には 400 メートルのトラックコースがある。競技場の外側もひらかドームへ繋がる通路もあり、ランニングやウォーキング等たくさんの人にご利用いただいているのでぜひご利用ください。

○大坊小学校、松崎小学校の改築について

(市民から)

広船小学校がなくなり、西地区の関係でも統合や改築するなどの話があるが、予算の関係で、改築した方が安上がりなのか。

(市から)

- ・広船小学校は廃校になって平賀東小学校に統合され、現在、約 16 億 3 千万円で一部解

体して工事の方は入っている。契約でいくと平成 31 年 5 月の完成で進んでいる。さらに、猿賀小学校も今年度着工予定である。

- ・西地区にある大坊小学校は、児童数が減っている。碓ヶ関小学校も児童数が減っている。今年、碓ヶ関小学校の耐力度調査を実施するが、その結果次第で補助金対象となるかどうかが決まる。その結果をもって、31 年か 32 年に現碓ヶ関中学校に碓ヶ関小学校を併置する計画を立てている。ただし、予算上確約がないため、今の長期計画に載せて進めていきたいと考えている。
- ・大坊・松崎小学校は大規模改修という形で、改築ではなくリフォームで計画している。今後 20 年ぐらいまでは、小学校 9 校、中学校 4 校を維持したいという思いで、改築・改修で計画していた。大坊小学校をどこかに統合するとかは 20 年先までは考えていない。先般の 6 月議会である議員から 40 年後はどうなるかという話もあったが、そこまではまだ計画していない。

○合併特例債について

(市民から)

合併特例債を庁舎建設や小学校の建て替えなど、建物だけに使っているようであるが、農業には使えないか。人・農地プランは、個人への補助金はあるが、広船りんご生産組合のように団体の場合は、補助金が使えない。以前は、国の補助を使ったことはあるが、合併特例債をスプレーヤーの購入などに使えないものか。

(市から)

- ・気持ちはわかるが、国で補助事業を出すのも最初だけである。最初組織を作るときの支援としてスプレーヤーの補助等を出している。国の方針は、最初は支援するが、その後は自助努力という考え方である。
- ・合併特例債は市町村合併に伴うものにはしか利用できないため、農業関係は利用できない。
- ・農地中間管理機構ができてから、農地の集約がセットになっており、面積の規模拡大を図らなければ新たな部分での報酬は不可能となっている。新しい制度設計で、今の経営体が最初に実験事業でやった時のような事業が出てくれば話は別だが、今は厳しい状況である。

○老人ホームについて

(市民から)

団塊の世代が介護される時代になった時、現在でも老人ホームの待機をさせられている状況であるが、今後どのような計画を持っているのか。

(市から)

- ・施設の数については、市だけのものではないので、何年後にいくら増やすという計画はない。

- ・今、国の方針として、住み慣れた地域で長く暮らせるようなシステムにしていこうという方向が出されている。東小学校の学区で広船地域についても 7 月 10 日に支え合いの地域づくりの意見交換会という、その地域には、年を取ってからどういうものが必要で、またそれに関わるものでどういう資源が広船にはあるのかという地域の検討会を行う。小学校学区で 7 月中に 10 カ所ほど行き、地域毎で問題点と資源を掘り起こして、その地域ので何ができるかということをもとに作っていこうというスタイルに国の方針が変わってきている。それを踏まえつつ、健康作りで健康寿命を延ばすことによって、少しずつ施設や医療の方とリンクさせ、介護サービスや医療費を抑えるような形のシステムを作っていくながら、それでもやはり年はとっていくので、その中でどの程度施設が必要になってくるのかというような話しになっていくと考えている。まずは、元気で長生きをするための健康作りに力をいれていく。
- ・これは国全体の問題でもあり、消費税を上げて社会保障に使うということもあったが消費税は上がっておらず、毎年 1 兆円ずつ、医療、介護、年金に係る費用が増えていっている。それに伴って、介護保険料や国民健康保険税も上がっており、なかなか止めることはできない。
- ・今、国からきている方針は、地域でやってくということである。介護は家でやるにも限界はあるが、かといって全てを施設にするにも莫大な金額がかかる。それをどのようにしていけばよいかは、これからの大きな課題である。

○議会傍聴時の服装について

(市民から)

議会を傍聴したいとき、畑から長靴、作業着のまま入れるか。特別な規定はあるのか。

(市から)

- ・泥がついていれば、落としてから入っていただければ大丈夫である。
- ・普通は杖や危険物を持ち込んではいけないというような規定はある。

(市民から)

以前、ある委員の紹介をされる際に議場に行ったとき、入口の近くに椅子 1 つ置いて放り投げられた。もし、これからもいろんな委員の紹介を議場でするときは、考えてもらいたい。テーブルと椅子を用意したほうが良い。

なぜ作業着の話をしたのかというと、農業委員会の総会では、毎回ネクタイをしないといけないとなっているようで、市役所自体がそういう雰囲気なのかなと思った。

また、最近、市役所に対して感じることは、泥臭さがない。例えば、あいさつは職員からかけてもらいたい。

(市から)

- ・ネクタイや上着など議場に入るルールはあるはずなので、その案内がなかったと思う。

- ・我々が議場に入るときは、夏場はネクタイを締めないが、通常はネクタイを締めて上着を着てバッチをつけている。
- ・各地区のまちづくり懇談会に行くと、あいさつが良くなったと言われているが、まだ徹底されていないので、引き続き職員に呼びかけていく。

○小学校の統廃合について

(市民から)

以前、1学年1学級以下の場合、全て統廃合の対象となっているという話を聞いたことがあるが、先程の話では20年先まではこのままでいきたいという話だったので、その辺はどうなっているのか。

(市から)

- ・学校の統廃合については、基本的には、地元の父兄や地域の人々の声を聞いてやることとしている。今の段階で、行政から統廃合するというのではない。
- ・平成30年には、大坊小学校が2年生と3年生が8人と7人の15人であり、16人以上でないと複式学級になる。碓ヶ関小学校が4年生と5年生が11人と5人なので複式学級になる。平成35年になると、大坊小学校は2年生と3年生が8人と8人で複式学級になる可能性がある。碓ヶ関小学校も2年生と3年生、5年生と6年生が複式学級になる可能性がある。平成40年になると、大坊小学校の3年生と4年生、5年生と6年生が複式学級になる予定である。碓ヶ関も同じである。そういう計算にはなっていないが、特に5年生6年生の複式学級になれば、学力が中学校に上がった時に困るということもあり、広船小学校でも複式学級になっても学校を残さないといけないという考えできたこともあったが、平賀東小学校へ統合した経緯がある。
- ・地域の人たちの考え方を考慮しないと、簡単には廃校にすることはできない。効率的な財政運営を考えると、統合した方が良いという考え方もある。ただし、すぐに統合するという話にはなっていないのが現状である。

○健康診断について

(市民から)

再検査の通知が来たとき、病院の一覧が併せて来るが、その専門の病院がどこかわからないので、相談に応じてもらえるのか。

(市から)

- ・健康推進課に保健師がいて相談を受け付けできるので、ぜひ相談に来てほしい。

○消火栓について

(市民から)

家を取り壊した場所が丁字路になっていて、角のところに消火栓があり危ない。これか

ら冬になって除雪が始まるともっと危ないと思うので、動かすことができない場合は、ガードレールを設置するなど対応できないか。

(市から)

- ・明日状況を見てみる。ガードレールはできないと思うので、移設になると思う。

○ふるさと納税について

(市民から)

今、ニュース等で、ふるさと納税の寄附金で豪華なものをやっているような問題も出てきているようだが、平川市はどのような考え方でどのような品物を送っているのか聞きたい。

(市から)

- ・平成 27 年度は 1 億 6 千万円、平成 28 年度は 2 億 8 千万円の寄附をいただいた。
- ・返礼品は寄附金額に対し 3 割の品を返しており、1 万円をふるさと納税していただければ、りんご 5kg や桃 2.5kg 等をやっている。
- ・ふるさと納税で一番人気なのは、りんごである。
- ・ふるさと納税による寄附がきていることを加味して、りんごの木の雪被害やねずみ被害に対する苗木助成ということで、特別に今年 6 月の補正で約 1 万本分の予算化をした。農協で補助している 700 円にプラスして市の方でも補助をしたいと思っている。1 反歩あたり、わい化 3 本、丸葉 2 本、1 町歩で 30 本まで補助を出す予定である。農協の補助と合わせて使うと、品種によってはほとんど自己負担がなく買うことができる。
- ・お礼の品のりんごは、農協のみならず個人でも提供してもらっている。その他、肉や青天の霹靂、桃などもある。まだ実績はないが、空家の管理などもある。

(市民から)

電車はどうなったのか。

(市から)

- ・30 万円以上ふるさと納税した方が選択できる品であったが、総務省から指摘があり、今は取りやめた。話題作りということで発信していたが、実績はなかった。
- ・今年から企業版のふるさと納税をお願いしており、平川市でも「世界一の扇ねぶた知名度アッププロジェクト」と「ひらかわ住みたい・産みたい・育てたいまちプロジェクト」の 2 件が国の方で認定された。
- ・青森県で企業版ふるさと納税が 3 件認定され、うち 2 件が平川市であった。

○ねぶた運行について

(市民から)

世界一のねふたは駅前まで行くのか。今工事をしているようだが。

(市から)

- ・今、電線の地中化工事をしていて、駅から豚金のところまで終わったところである。今年度から4年かけて、バイパスまで地中化工事をやることで進んでいる。十市大祭典を平成33年に平川市で受ける計画でいるため、平成32年までに完了したい。

○出産祝金について

(市民から)

第3子の出産祝い金はまだあるのか。

(市から)

- ・第3子以上に対して、30万円支給している。
- ・出産祝金よりかかっているのが、第2子の保育料の無料化で、今年で1億円程である。

○婚活事業について

(市民から)

広船地区には、後継者はたくさんいるが独身者も多い。出会いの場が何かないか。

(市から)

- ・出会いの場を作るハグメグ支縁員として広船から1名委嘱している。募集したところ、支縁員として20人応募いただいた。支縁員の方に頑張ってもらって、情報を寄せ合ってカップルを増やしていただければということを進めている。
- ・弘前を中心とした広域定住自立圏で出会いの場の創出事業もやっており、電車で合コンなど商工会青年部でやっているものもある。
- ・イベント内で、連絡先の交換はあるようだが、その場でのカップル成立数は多くないようである。

(市民から)

農家はまじめで良いのだが、出会いの場に行くまでの勉強会が必要である。出会いの場に行っても、会話が苦手な人がいない。出会いの場だけではなく、そのような場に行った時の話し方とかを支援する場はないか。

(市から)

- ・広域定住自立圏で行っている婚活支援では、名簿に自分で登録して、名簿を見て気に入った人に自分で連絡を取り合うということもやっている。
- ・事業の中には、基本マナーや話し方、接し方を学ぶようなメニューもあるようである。

○カーブミラーについて

(市民から)

カーブミラーがあちらこちらに向いていて、方向が良くないものがある。

(市から)

- ・おそらく雪で方向がずれていると思うので、町会長を通して、総務課へ相談していただきたい。

○街灯について

(市民から)

行き止まりのところにある家が空家となっていて街灯が必要なくなった。その他に暗いところがあるので移動することはできるか。

(市から)

- ・町会長を通して総務課へ相談していただきたい。おそらく移動は可能であると思うが、費用がかかる部分については予算がないため協議になると思う。